

サイバーポート検討WG(港湾・貿易手続) における検討事項について

WGの
目的

- 「港湾関連データ連携基盤」のシステム構築にあたって、要件検討及び基本仕様策定が必要。
- このため、民間事業者間を流れる書類群について関係者の協力の下に情報収集を実施。これをふまえ、所要の検討を実施。

情報収集項目

- 当該事業者における業務フロー
- 各業務における電子化状況
- 情報の提出、受領の手段、形式(紙、FAX、メール、PDF、CSV、XML 等)、割合、様式及び記載内容
- 品目による情報内容の差異
- 情報を関係者に受け渡すタイミング(分散しているか、段階的に情報が出来上がるか)
- 電子的な情報共有をしている場合の内容

検討事項

- 各事業者の情報項目、受け渡し方法、タイミングを網羅的かつ相対的に整理
- システムの構成に必要なデータセット、EDI、API、システム要件等を検討

第1回WG

- 実態把握の目的・内容・取りまとめイメージ
- 「港湾関連データ連携基盤」の要件検討・基本仕様の方向性

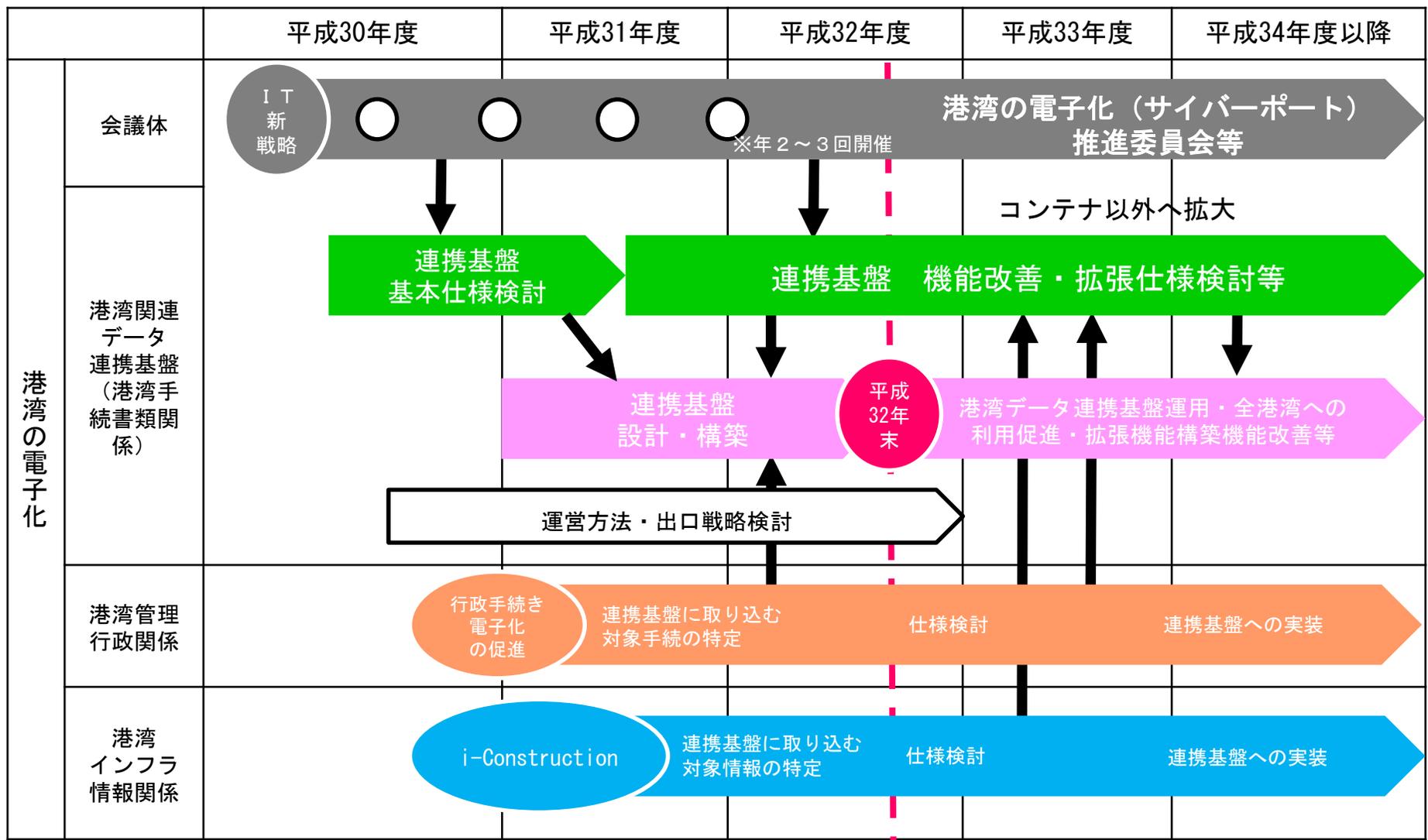
第2回WG(今回)

- 民間事業者間を流れる情報に関する実態把握の結果について
(業務フロー、電子化状況、情報共有手段等)
- システム構築に関する基本的考え方及び今後の進め方について
(システム構築にあたっての基本的考え方、基本要件と作業方針、今後の検討項目及び検討方針の提案 等)

第1回WGにおける主な協議内容

	質問の内容	応答の内容
1	データ化される情報にはコンテナ総重量も含まれるのか。	民間事業者間で流れる情報であれば含まれる。
2	港湾関連データ連携基盤とAIターミナルの関係性如何。	相互連携しながら、ソフト・ハード一体となって取り組む。
3	在来船業務にも拡大するのか。	拡大したい。
4	経済産業省のデータ共有プラットフォーム実証実験との関係性如何。	重複しないよう進める方針。連携し、実証実験で得られる成果は本取組にも反映したい。
5	ターミナル側のシステム改修については民間または港湾管理者の努力が必要という理解でよいか。	基本的には各社のシステムは大幅な改修をせずとも、スムーズに接続できるよう考えていく。

	意見の内容	応答の内容
1	WGでの検討内容を事業関係者の中でも検討するための時間的余裕について配慮いただきたい。	スケジュールについては個別に相談したい。
2	ドレージ業者は、電子化の有無にかかわらず、実務上は紙の書類も必要となる点をご認識いただきたい。	必要のないものまで電子化する意向はない。
3	コンテナ単位・貨物単位なのか、最小単位を明確化すべきではないか。	貨物単位を想定すれば、コンテナ単位とがうまく紐付けされるだろうと考えている。



→ 成果のフィードバック